

元助役関連2社 113億円受注

関電3原発工事 3年間で

関西電力の社長ら20人による計約3億2千万円分の金品受領問題で、金品を渡した福井県高浜町の森山栄治元助役（故人）が相談役や顧問を務めた2社が、少なくとも過去3年間に計110億円超の原発関連工事を関電側から受注していたことが分かった。両社は森山氏が顧問を務めた関電子会社「関電プラント」（大阪市）からも発注を受けていた。

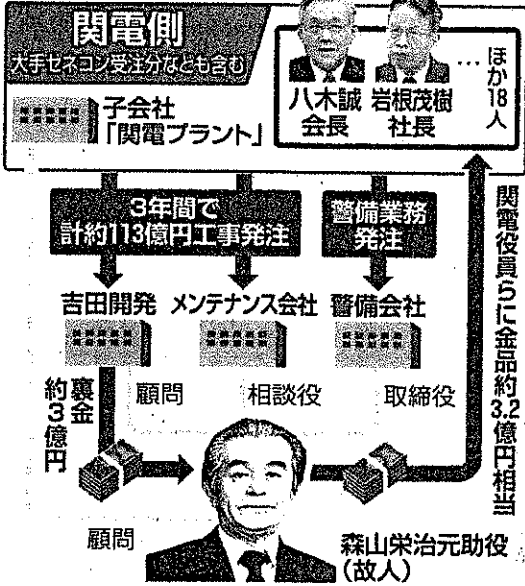
森山氏は原発警備を請け負う地元企業でも取締役を務めており、電気料金を原資とした原発事業を取り巻くさまざまな企業に1人で深く関与していた構図が浮き彫りになった。2社は、金沢国税局の税務調査で森山氏へ裏金約3億円を渡していたことが発

覚した土木建築会社「吉田開発」（高浜町）と、兵庫県内に本社を置く原発のメンテナンス会社。森山氏は吉田開発で顧問、メンテナンス会社で相談役にそれぞれ就いていた。

過去3年分のそれぞれの工事経歴書によると、メンテナンス会社は高浜、大飯、美浜の三つの原発で原子炉を冷やす冷却水系統の

工事を中心に、関電や関電と契約している大手重工業「カー」を通じるなどして約86億円（2016～19年）を受注。吉田開発も関電や大手ゼネコンを通じるなどして高浜、大飯両原発での

森山氏と受注各社の相関図



工事を約27億円（15～18年）請け負っており、2社の総額は少なくとも計113億円にのぼる。このうち森山氏が長年顧問を務めた関電の全額出資子会社「関電プラント」からは、メンテナンス会社

約4億9千万円、吉田開発に約1億5千万円が発注されていた。発注側と受注側双方に森山氏が関係しており、原発工事への深い関与がうかがえる。

民間調査会社によると、メンテナンス会社は高浜1号機運転開始の2年前の1972年に若狭支店を開

設。朝日新聞の取材に対してメンテナンス会社は「（森山氏は）地元の業者集めなどで相談役になってもらっていた」としつつ「関電から工事は受注しているが、森山氏は会社の経営にはかわかっておらず、お金は正当な流れしかない」と説明した。吉田開発は「税務調

査で不適切な分には対応した」としている。

関電は9月27日の会見で吉田開発との関係について「（森山氏を通じた金品受領の）見返りとなるような対価的行為はない」と便宜供与を否定している。

また、森山氏は町役場を退職後、原発や地元自治体の警備業務などを受注している高浜町内の会社に設立時から社外取締役として在籍していた。地元関係者によると、この警備会社には元町職員だった森山氏の親族が役員として勤務しているといい、関電幹部は「警備業務で相当使っている」としている。

10/2 朝日